

第3回

生きるすがたについて考える

物語のポイント

今回は、登場人物の「生きるすがた」を通じて、その人物のせいいかくや、文章の主題をとらえましょう。物語や伝記には、登場人物の生き方がよくえがかれます。そのすがたには、筆者の伝えたいことが表れているのです。

●登場人物のせいいかくの読み取り方

わたしたちは、感じたことや考えたことをもとに、話したり行動したりしますね。それらに表れる、その人の特ちょうを「せいいかく」といいます。物語の登場人物のせいいかくも、考え方や行動のしかたから読み取ることができます。次のような方法をおさえておきましょう。

〈登場人物のせいいかくの読み取り方〉

- (1) 登場人物のせいいかくを直接表している言葉から読み取る。
- (2) 登場人物の行動から読み取る。
- (3) 登場人物の発言や口調から読み取る。
- (4) 登場人物の考え方がわかるところから読み取る。

●主題の読み取り方

「主題」とは、文章をとおして筆者が読者に最も伝えたいことです。主題は登場人物の生きるすがたに表れることがあります。筆者は、登場人物の生き方をとおして、自分が読者に伝えたいことを表現しているのです。

また、主題は多くの場合、文章のクライマックスから読み取ることができます。クライマックスは「やま場」ともよばれ、最ももりあがる場面のことです。クライマックスでは、重要なできごとが起きたり、登場人物の気持ちに大きな変化が生じたりします。

〈主題の読み取り方〉

- (1) 登場人物の考え方・生き方に注目する。
- (2) クライマックスでえがかれていることに注目する。

登場人物がなやんだりまよつたりした場面でとる行動にて、作者の伝えたいことがこめられていそうだね。



名前

学習日

月 日

◀ つぎのプリントへひづり

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさ
を体験しよう！



かっこいい小学生になろう



例題

次の文章を読んで、あとに問うて答えてなさい。

祖母のせなかは、じょうぎでも入つていてるかのよつにまつすぐで、しゃんとしていた。両親が共働きで昼間は家にいなかつたので、わたしは小学校のときは学校が終わると祖母の家に行つていた。

祖母はおしゃべりな方ではなかつたけれど、いつもわたくしのことを気にかけてくれていた。

たとえば、わたしが学校で仲の良かつた友達とけんかをして落ちこんでいたとき、祖母はおやつにわたしの好物を出してくれた。言葉に出して「元気を出して」と言ってくれたわけではなかつたけれど、祖母がわたしに何を言おうとしているかは、十分に伝わってきた。^① 祖母はそういう人だつた。

わたしの人生の先生は祖母だ。祖母は、その生き方をとおして、わたしにさまざまなことを教えてくれた。

人生で何かまようことがあるとき、わたしはいつも祖母ならどうするか考えてしまう。祖母は言葉では答えてくれない。でも、祖母がどう行動するか考えると、答えがおのづと見えてくるのだ。

15

10

5

1

（ ） 「わたし」の祖母は、どのような人だつたのですか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

（ ）ではなくて、（ ） で気持ちを

伝える人。

2

この文章の主題を次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 言葉で自分の気持ちを伝えることのすばらしさ。
イ 学校で仲の良かつた友達とけんかした悲しみ。
ウ さまざまなことを教えてくれた祖母への思い。

工 小学校のときの祖母とのなつかしい思い出。



文章から登場人物の生きるすがたを読み取り、それを筆者が最も伝えたかったことと結びつけ考え方よ!



Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさ
を体験しよう!



かっこいい小学生になろう

